

通巻28号 令和2年3月10日発行（年1回発行）

ISSN 1348-611 X

# 石川県作業療法学術雑誌

2019 No.28

主催：(公社) 石川県作業療法士会

# 目 次

巻頭言 .....	石川県立高松病院	村井 千賀	
特集1 「地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割」			
地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割 .....	石川県立高松病院	村井 千賀	1
特集2 「急性期から終末期における作業療法を考える」			
1. 手術室, 超急性期での作業療法士の役割 —当院での取り組み— .....	金沢大学附属病院	堀江 翔・他	9
2. 在宅復帰困難な終末期がん患者に対する退院・外出支援と家族との関わり .....	恵寿総合病院	川上 直子・他	13
特集3 「ライフステージにおける精神科作業療法を考える」			
1. 仕事を継続しながら地域で暮らすための作業療法の関わり ～作業療法士が地域の中で活動することについての考察～ .....	公立能登総合病院	今井 透	17
2. 不登校に対する介入時期による介入結果の違い .....	放課後等デイサービスゆしゃ	中川紗佑里	21
特集4 「医療介護連携を考える」			
1. 病院併設の強みを活かした通所リハビリテーションでの支援 ～管理栄養士との連携から考える作業療法士の役割～ .....	河北中央病院	市川 翔悟・他	23
2. 通所・訪問リハビリの特色を活かした作業療法によりサービス付き 高齢者向け住宅から定期的な自宅外泊が可能になった症例 .....	介護老人保健施設加賀のぞみ園通所リハビリテーション	今井 啓介・他	26

## 研究論文

1. 高次脳機能障害者の運転再開許可群と保留・不可群における神経心理学的検査  
およびドライビングシミュレータ検査結果の比較  
..... 浅ノ川総合病院 堀 千恵・他 31

## 実践報告

1. コミュニティバスを活用した買い物支援により外出意欲が向上した事例  
～作業療法士による介護予防・日常生活総合事業訪問型サービスC～  
..... 芳珠記念病院 合歓垣洸一・他 37
2. 介護保険短時間型通所リハビリテーションから就労継続支援B型事業所へと  
結びついた一例 ～他機関多職種との連携を通して～  
..... 恵寿総合病院 五十嵐満哉・他 43
3. 家族との自宅生活が可能となった乳癌骨転移により対麻痺を呈した一症例  
..... 城北病院 吉田 翔 49
4. 麻痺手の使用に焦点を当て介入したことで目標設定に変化がえられた一症例  
..... 石川県済生会金沢病院 宮地 佳奈・他 53
5. 橈骨遠位端骨折後のCRPS (type I) の症例に対するハンドセラピー  
—患者教育と1年にわたるスプリント療法を併用して—  
..... 能美市立病院 山田ともみ・他 58
6. 女性脳卒中高齢患者の1人暮らしの実現に向けた家事動作の評価と支援  
..... 石川県済生会金沢病院 宮地 佳奈・他 64
7. 倦怠感の強い人工透析患者に対する作業療法経験  
—実際に湯をはった浴槽での入浴練習と家屋評価により現状を受容できた一例—  
..... 能美市立病院 中野 行賢・他 68
8. 通所リハから通所介護への移行  
～認知症高齢者の目標を家族と他職種で共有, 協業し達成した取り組み～  
..... 能美市介護老人保健施設はまなすの丘 明福真理子・他 73

投稿規定 ..... 77

執筆要項 ..... 78

# 巻頭言

石川県立高松病院

村井千賀

令和元年度という新しい元号の年度に石川県作業療法学会を開催することができた。令和の意味には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められている。

昭和45年理学療法士・作業療法士法が制定され、作業療法の歴史は50年余りを経過した。アメリカから輸入された日本の作業療法は、日本の医療の文化の中に取り入れられ、世界では珍しい国民皆保険制度である医療保険に守られた形でスタートした。医療保険は医師の医療技術を評価したものであり、その治療には、手術療法、薬物療法、非薬物療法としての作業療法等がある。手術療法は、ここ数年目覚ましい技術が開発され、後遺症も少なくかつ入院日数も減少している。薬物療法も秒進分歩様々な薬が開発されている。では、非薬物療法である作業療法はどうだろうか。その技術は何か進歩したのだろうか。

筆者は、保健指導として発達相談、喘息対策、人工呼吸器を装着したALSの在宅支援、セルフヘルプ活動の支援、介護予防モデル事業など、医療では認知症や手の外科、精神科治療、回復期リハ病棟のモデル事業などを経験した。この経験を通して、作業療法の一つの手法である国際生活機能分（ICF）によるアセスメントを特徴とした生活行為向上マネジメント（MTDLP）を開発した。

先般、事例登録されたMTDLPのアセスメントを分析した結果、作業療法士は筋骨格系疾患では環境や起居などの課題を選択しているなど、疾患によって選択されやすいICFコードと課題が明らかとなってきた。他には、介護保険の通所リハビリテーションにおけるデータ収集システム（VISIT）を開発、リハビリテーション手法の標準化を目指した。その結果の一つとして、トイレ動作の自立に最も関係する訓練方法は、下着の脱着と立位保持であることが明らかとなってきている。令和2年度には、精神科作業療法の効果と手法を明らかにするため、新たなデータ収集分析システムを開発する予定である。

よりよい作業療法技術を対象者に提供するため、日本作業療法士協会では一人ひとりの臨床の実践を集め、新しい作業療法の文化を育てようとしている。作業療法研究は、長い間、心身機能の呪縛にとらわれてきた。統計手法が日々開発されている今、生活に対する専門職である作業療法士の研究は活動と参加に向けた研究として可能性を秘めていると考える。

日々の臨床の実践から見えてきたことをまとめてみよう。

## 編集後記

「平成」が終わり「令和」となりました。年号の変更に加え、理学療法士作業療法士養成施設指定規則が改正され、カリキュラム、臨床実習の指導方法および指導者の基準に対してメスが入り、理学療法士、作業療法士にとっては忘れられない大きな変化の年になりました。時代の流れについて行けるよう、「進化」をしていきたいですね。

そんな中、石川県作業療法学会では、初の2日間開催を行うことができました。みなさん、いかがだったでしょうか。日々の業務に対する情報提供の場として、みなさんのご期待に応えることができていたならば幸いです。

さて、このたび、年1回の石川県作業療法学会誌を発刊することができました。発刊にあたり、査読や編集にご協力頂きました会員のみなさまには、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

当学会学術部では、学会発表・論文投稿に対する相談も受け付けております。会員のみなさまには、気軽にご連絡を頂けることをお待ちしております。また、次年度以降も石川県作業療法学会誌への多くの投稿をお待ちしております。

学術部担当理事	麦井 直樹
	河野 光伸
学術誌編集委員長	堀江 翔
編集委員	川口 朋子
	吉武 将司
	中嶋 理帆
	西 悦子
	小林亜里沙
	寺嶋 翔子
	仁木 裕也
	橋本ひかり
	越田 雄
	宮腰 真
	大西 知江
	菅原ちさと
	杉中 菜子
	山本 沙季
	米田美登里
	柳内百合香
	菊池 ゆひ
	高間 達也

石川県作業療法学会誌（第28巻 1号）（通巻28号）

2020年3月10日発行

編集 公益社団法人 石川県作業療法士会

発行所 公益社団法人 石川県作業療法士会

印刷 ヨシダ印刷株式会社